

【様式1】

令和7年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名 豊島区立 池袋第三小学校

校長名 塩田 英俊

学校の教育目標		
人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で豊かな人間性と向上心を培い、時代の変化に主体的に向き合い、多様な文化や考えを認め尊重しながら、自ら考え判断し、主体的に行動することができ、よりよい社会の創り手としての資質・能力の基礎をバランスよく身に付けた児童を育成する。 ◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○じょうぶで元気な子		
校内研究主題		
「主体的に学び、追求する子の育成～学習展開を工夫し一人一人の学びを深める授業の実践～」		
学力に関する目指す児童像		
わかった！楽しい！を積み重ね、もっと学びたいと取り組む児童		
授業改善推進プランの全体像		
本校の児童の課題 ○ 自分で課題を見出し、問題解決に主体的に取り組む力が弱い。 ○ 問題解決の場面で、自分の考えに根拠をもち、論理的に考えていくことが苦手。		
自ら課題を見出し 見通しをもつ 児童とつくる学習計画 単元を貫く目標の設定・共有 教材提示の工夫 振り返りを活用した課題設定	課題を解決する ・学習プロセスの細分化 （スモールステップを踏 まえた学習展開） 学習方法の選択 ・課題解決に向けた対話 的な活動 ・学習の楽しさを味わう 協働的な活動 思考ツールの活用	学びを振り返る 次の学習につなぐ 学んだことをアウトプッ する表現の工夫 次の学びにつなげる相互 評価・自己評価 教師からの学びの価値づけ
◎校内研究 ・各教科での主体的な学び、学習展開の工夫 ・教員一人一人の授業実践報告 ・低・中・高分科会による年3回の研究授業 ◎言語活動の充実 ・文章を書く活動の確保 ・自分の考えを説明する場面の設定 ・話の聞き方の指導		

【様式2】

令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言語活動を通して日常生活における人との関わりの中で主体的に伝え合う力を高め、読むことや書くことを中心にして思考力や想像力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	学習に取り組もうとする姿勢や意欲は感じるが、個人差があったり、持続したりすることが難しい。	個別に声かけをして、できたら認めることを持続していく。
低	・長音、拗音、促音や助詞など基本的な文章の書き方には、課題がある。 ・読みに関しては、家庭環境の問題もあるが、かなり個人差がある。 ・文章の組み立てに課題がある。文章を書く時に、句読点やかぎ、行替えなどを適切に使えない児童が多い。	・連絡帳、ノート指導など、日々の学習で継続的に指導をしていく。意識的に「書く」取り組みを入れていく。ドリルパークなど、ICTも活用し、知識理解の習熟を図っていく。 ・定期的に日記指導を行い、適切な使い方を指導する。自分で書いた文章の音読をさせ、振り返らせる。
中	・文章から順序・つながりを読み取り、論理的に理解していない。 ・文章を書く（伝えたいことを明確に・内容のまとまりがわかるように）力が弱い。 ・語彙力が低い・理由を明確にして自分の考えを書くことが苦手な児童が多い。 ・漢字、語彙力の習得が十分でない児童が多い。	・授業の中で、意見や考えなどを言葉で伝えたり、文章で書く機会を増やしたりしている。 ・書くのが苦手な児童には個別について、一緒に進めていく。 ・読書の機会を増やす。 ・文章の型を教師が示し、自分の考えを理由とともに説明するような機会を意図的につくる。 ・漢字を熟語や文章と合わせて指導し、語彙を増やせるようにする。
高	・漢字の定着は、区の平均より4ポイント低い。 ・内容別正答率では、調べたことをもとに文章を書くことが5、2ポイント高い。説明文の読み取りは区の平均より2ポイント高い。 ・要旨を捉える授業では、筆者の伝えたいことをもとにはじめと終わりに着目し書こうとする児童が多くいた。 ・物語文の描写を基に登場人物の心情を読み取ることや、目的や意図に応じて展開を工夫して伝えたいことを明確に書くことに課題がある。	・漢字に関しては、反復練習が必要。漢字テストやプリントなどで反復練習していく。 ・自分の考えや、意見、感想など文章を論理的に書く機会を増やしていく。 ・スモールステップで、読み取りの基礎となる力を付け、深く読み取ることの面白さを味わわせ意欲を高める。手本の文章の良い点を確認した上で、自分の意図に合わせて書ける手立てをふむ。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的な見方・考え方を働かせ、知識や必要な情報を集めたり読み取ったりしたりすることを通して、主体的に問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・課題に興味をもてない児童がいる。 ・調べる手段が少ないため、受動的になりやすい。 ・課題を捉えることができるが、資料から必要な情報を選択する力が弱い。 ・調べてまとめたものを発表する場が少なかった。	・興味をもてるように導入、身近な事象や生活に根ざした工夫をする。 ・適切な資料を提示し、課題について話し合い、学び合う機会を増やす。 ・1単位時間の中に個人で調べる時間とグループで調べたり情報共有したりする時間を作り、資料をもとに自分の言葉でまとめ、伝える活動をする。 ・まとめたものをグループなどで共有しあう場をつくる。
高	・観点別正答率を見ると「思考・判断・表現」が全国平均より4.6ポイント高かった。資料の読み取りを正確に行える児童が多い一方、読み取れない児童もいる。 ・意欲的に学習に取り組む姿多く見られた。 ・社会的事象の知識理解が身に付いている児童が少ない。	・資料を読み取りやすいように提示の仕方を工夫する。 ・新しい知識を既習事項や身近な事柄と結びつけて考えさせる。知識をただ伝えるのではなく、思考を促す問いかけを重ね意見を出し合って、自分とは違う考えに触れることで理解が多角的になるようにする。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
基礎的な知識・理解を着実に習得し、身につけた力を根拠に筋道を立てて考え、話し合いや集団検討を通して多様な見方や考え方に気づき、視野を広げて問題解決しようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・数を数えることや、数の合成や分解について学習した。特に数の合成や分解については、苦手とする児童が多い。	・具体物を繰り返し用いて、数の構成を視覚的に捉えられるようにする。また、授業や宿題で復習する機会を設け、数に親しめるようにする。
低	・式を計算して解くことはできるが、文章問題では文脈を適切に読み取って正しい順序で立式することが難しい。	・具体物を用いて計算したり、場面を絵や図で表したりして、正確に立式・計算できるよう支援する。 ・具体的な操作やロールプレイで数量を可視化し、目に見える形で理解できるようにする。 ・単位は日常生活で使われる場面の想定、具体物の

	・単位や時刻などの量感をつかんだり別の単位に変換したりすることがよく分からず、苦手になっている。	提示を通して身近にとらえられるようにする。
中	・既習事項（三角形・四角形の辺や面の数、単位換算など）が定着していない。 ・数の概念や構成、大きさなどの理解ができず、着実に身に付いていない。 ・文章問題では設問を読み解く力が弱く、場面や順序に応じた立式や、答えの単位つけができないことが多い。 ・計算のできる児童は多いが、式の意味の説明、生活場面での活用が苦手。 ・作図（三角定規、コンパス、分度器の操作や活用）の苦手な児童が多い。	【豊島区立 池袋第三 小学校】 ・系統性のある！ ・数と計算では、小数のかけ算・わり算で小数点の移動が必要な計算問題に繰り返し取り組み、正確に求めることのできる力を高める。 ・折り紙や実物の容器などを用い、形をイメージしやすくして図形の特徴を習得できるようにする。 ・人口密度や円グラフ・帯グラフ、ドットプロットなどデータを適切に処理する活動を丁寧に支援し、多様な見方や捉え方ができるようにする。 ・思考・判断・表現の力を高められるよう、見通しを持たせての集団討議など、考え方を示しながら筋道立てて説明する学習の場を設定していく。
高	・内容別正答率の平均値は、全ての項目で区、及び全国平均値より高いが、その中でも小数の掛け算や割り算、図形の特徴を理解しての正確な作図、体積や容積の求め方と単位の変換、割合を基にしたグラフの活用などを苦手としている。 ・文章問題の読み取りや場面の把握などが苦手な児童が多いように感じる。	・数と計算では、小数のかけ算・わり算で小数点の移動が必要な計算問題に繰り返し取り組み、正確に求めることのできる力を高める。 ・折り紙や実物の容器などを用い、形をイメージしやすくして図形の特徴を習得できるようにする。 ・人口密度や円グラフ・帯グラフ、ドットプロットなどデータを適切に処理する活動を丁寧に支援し、多様な見方や捉え方ができるようにする。 ・思考・判断・表現の力を高められるよう、見通しを持たせての集団討議など、考え方を示しながら筋道立てて説明する学習の場を設定していく。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
理科の見方や考え方を働かせ、問題を見出し、見通しをもった実験・観察を行い、結果を整理し考察する活動を通して、自然事象への関心をもちながら主体的に問題解決しようとする態度を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・問題解決学習の各ステップにおいて、「問題づくり」の段階から多くの児童につまづきが見られる。生活経験の浅さから、自然事象への関心や知識・理解が低く、それ故に問題を見出す力に課題がある。また、立てた問題が自分事として捉えきれておらず、何を調べている実験なのか理解せずに取り組	・問題づくりに至る事象提示において、注目させたいポイントを明確にし、視点がぶれないようにする（多問題などにならないように配慮する）。視覚優位な児童が増えている傾向にあるため、できるだけ具体物を提示したり、視聴覚教材などを効果的に活用することで、印象的な事象提示となるように工夫する。また、知識を先行して身につけている児童も増えているため、「なぜ？」「どうして？」「思って

	んでいる児童も見られる。それ故、その後の実験結果の整理や考察をうまくまとめることができず、苦手意識につながっている様子である。	いた結果と違う！」という、認知的葛藤を生むような実験結果になる事象提示の工夫も必要である。仮説の設定や考察場面は、十分に時間をとるとともに、苦手意識のある児童のためにも、スモールステップで記述できるような手立てを講じたワークシートを配布したり、文例を提示するなどの支援を行う。
高	・基本的な知識・理解に課題が見られたが、昨年度よりも科学的な思考力が向上し、既習事項や生活経験などを生かした、具体性のある仮説・考察が発想できるようになっている。それ故に、単元テストなどにおいて思考力を要する問題の正答率は上がっている。しかし、特に6年生において、新しく習得が必要な科学的な用語の定着には不十分な点が見られた。全体的に、学ぼうとする意欲の高まりが著しい一方で、テストの点数にその結果が反映されず、やる気の高さとの乖離に課題を感じる。	・昨年度に引き続き、問題解決の流れについて視覚的に捉えられるよう、理科室内にステップチャートを掲示する。仮説の立て方、考察のまとめ方の例などを記した“ヘルプカード”に加え、“理科のノートの作り方”というノートの書き方・まとめ方の例も掲示し、併用することで、考え方を適切に文章に表現する方法について適宜確認できるようにする。また、仮説や考察のまとめ方が上手な児童のノートを『ノート名人』として掲示し、常に児童の目にとまるような教室環境をつくる。 各クラスの理科のClassroomを作り、そこに毎時間の板書写真や実験動画、実験結果写真等を挙げ、視覚的に授業を振り返ることができるようにする。単元テスト前の習熟の時間などにおいても、ふりかえりのためのツールとして活用させ、授業の中での学びが、知識として定着していくようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
自分の思いや気付きを大切にし、学ぶ楽しさを感じながら、友達との活動・対話を通して身の回りの生活に生かしたり、よりよくしたりしようとする力。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・多くの児童は、学校への期待をもち、楽しみを見い出しながら取り組むことができていた。少数ではあるが、環境に慣れず、不安に思ったり、積極的に行動できない児童もいたりした。 ・身の回りの物の整理やトイレや水道の使い方、時間の意識などに課題がある。	・学習に取り組みやすくするために、歌やリズムゲームを取り入れたり、体を動かしたりするなど、楽しみながら取り組めるようにしていく。学習の流れが分かるように視覚的な支援を増やしていく。 ・写真を掲示し、お道具箱の整理の仕方やロッカーの整理の仕方などを視覚的に提示する。また、タイマーを使用して時間を意識できるように促す。
低	・植物の成長について、新たな気付き	・どんな思いで向きあっているか問いかけ、「もっ

	を見つけ、観察カードに書くことはできる。しかし、比べて考えることに課題があった。 ・見つけた気付きを、学びに関連付けることが苦手。	と調べたい」「解決方法を考えたい」と主体的に活動することを促す。 ・前時の観察カードや写真を見て振り返る時間を設け、友達と対話しながら比べて考えられるようにする。また、手本となる文章を示し、成長の様子を記録できるようにする。 ・友達と活動しながら学ぶことができるよう、思いや気付きを伝えたり整理したりしやすいワークシートを用意する。
--	--	--

【豊島区立 池袋第三 小学校】

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組む。 音楽を形づくっている要素を基に、音楽を聴いたり表現したりする活動を通して、音楽への自分の思いをもてるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・鍵盤ハーモニカの技能の定着が難しい。 ・音楽づくりなどの学習で、グループで充実した活動にすることが難しい。個々の主張が強くまとまらない。	・スモールステップで、「できた!」を重ねていく学習方法をとる。ミニティーチャー制度などを用いて友達と教え合う活動を取り入れる。 ・音楽づくりは、個々の思いを強くもつので、作品を一つに選ぶ、つくりあげるというよりは、個々の作品をつなげ、グループの音楽にできるような過程を大切にする。
中	・強い特性をもったり集団に馴染めなかったりする児童が多くいるため、その児童の得手不得手を加味しながら、一斉指導、グループ活動などの展開が難しい。 ・グループでの表現や交流活動で、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい。	・分かりやすく学習内容、活動を伝える。スモールステップで解決できるような課題を設定する。 ・いくつかの学習方法や支援を準備しておく。 ・自分の言葉で対話する力をつけるため、ペアやグループでの伝え合いの場、経験を積めるようにする。その上で、グループでの協働学習で、友達の言葉を受け止め、自分の考えに足したり、更新したりする学び方を進めていく。
高	・歌唱に対して苦手意識をもつ児童がいる。	・嗄声や変声期にかかってくる児童には、自分の出しやすい自然な発声を促し、自分の声を肯定的に捉えられるように声掛け、助言する。グループでの歌唱表現を多く取り入れ、友達との関わりの中で表現力を付けられるようにしていく。 ・ワークシートや板書を、思考ツールなどを活用し

	・音楽を形づくっている要素やその表れ方と曲想との関わりを整理しながら、音楽をより深く理解していく力が、まだ弱い。	工夫することで、曲想、特徴、表現の工夫との関係を整理しながら、表現、鑑賞の学習を深めていけるようにする。
--	--	--

【豊島区立 池袋第三 小学校】

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わい、自分の感じたことや思い、考えを深める力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・多くの児童が作品作りに対して意欲的である。一方で、イメージを表現することが難しい児童もいる。	・発想が広がるような導入をするとともに、机間指導において、個別に支援をしていく。友達や他の学年の作品を鑑賞する時間を設ける。
中	・個別の支援を必要とする児童が多く、用具の使い方が分からなかったり、指示が複雑になると活動が停滞したりする児童がいる。	・毎時間のめあてや活動を明確にし、作品が完成するまでのプロセスを細分化する。また、用具の使い方や授業の流れをイラストや文字で黒板にまとめることで指示を視覚化するようにする。
高	・自分の思いを明確にもち、深めながら作品をつくり進めることが課題である。	・ワークシートを活用し、アイディアを出したり、書いてまとめる時間を取るようにする。自分の思いや表したいことを作品をつくりながら振り返ることができるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
自分の生活に関心をもち、基礎的基本的な知識や技能を身に付け、自分の生活をよりよくするために主体的に課題を見だし、解決策を探究しようとする子		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・意欲的に取り組む子が多いが、家庭での経験の違いもあり、知識に差がある。	・実生活と座学を結びつけて活用し、調理実習、制作の機会を増やし、知識・技能の定着を図れるよう、課題意識をもって取り組めるようにする。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力	
体育や保健の見方・考え方を働かせ自己の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断すると共に、他と協力しながらよりよいルールや活動の在り方を考え、楽しさや達成感を共有することで、運動に親しみ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。	

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・体を動かすことに楽しんで取り組んでいる。どのように動かせばいいのかが分からないなど、自分の体の動かし方に課題がある。体幹がない。	・一つずつ動かし方を説明し、教員の動きを真似するなど、自分の体を意識して動かす活動を取り入れる。また、リズムに合わせて動く活動を取り入れる。
中	・個の学びに止まり、協働的な学びにつながらない。 ・基礎的な体力や体の動かし方が身についていない。 ・作戦を選んだり規則を工夫したりすることが少ない。 ・運動に対する意欲があり、友達と教え合いながら学習できる。	・グループ活動を中心に学習を進め、ワークシートなどを活用し、子ども達同士の学び合いの場を増やす。 ・体づくり・体ほぐしの運動を授業の前に入れて児童に身につけさせる。 ・作戦を提示したり、みんなが楽しむためにという視点を教師から投げかけたりする。
高	・登り棒や雲梯などの基礎的な技能に課題を感じる。 ・友達と協働しながら学習を進めることに課題がある児童も見られる。 ・個人での能力を高めようという意欲はあるが協働的に高め合うところへの意識が向かない様子。	・準備運動の充実、体づくり運動で体を動かす感覚を高めていく。 ・振り返りも体育科の授業の重要な部分と考え、十分に時間をとり、1時間の自分の活動を意識させ次へのつながりを見通しながら書かせていく。 ・動画を撮影し合ったり、アドバイスを送り合ったりする協働的な活動を意図的に増やす。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
各ユニットのゴールを意識し、キーセンテンスを用いながら対話する力。活動を振り返りながら、次への意欲や見通しをもつ力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・ALT とのコミュニケーションを楽しみながら取り組んでいる。その時間に学習した言葉を使いながら、学習をすることができているが、時間がたつと忘れてしまう児童も多い。	・学習したこと（キーセンテンス）を思い出せるように、授業のはじめに、簡単な復習をしたり、他教科との関連を図り、音楽科等で歌ったり、体育科で体を動かしたりと、英語を取り入れた活動をしている。
中	・ゴールを意識することはできているが、キーセンテンスの活用や習得が十分ではない。 ・授業で行った活動の振り返りを授業の終末で行っている。	・キーセンテンスのカードやピクチャーカードなど視覚支援を更に充実させる。
高	・キーセンテンスやレスポンスを意識してアクティビティを意欲的に行う姿が	・書字ノートを有効活用し、四線を意識した書字ができるようにする。

	見られる。 ・毎時の振り返りカードが次時の意欲につながっている。 ・四線を意識した書字に課題が残る。	
--	--	--

【豊島区立 池袋第三 小学校】

Ⅰ Ⅰ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・場面や登場人物の心情を考えて、交流や発表することに意欲的である。自分と結び付けて考えることが難しい児童がいる。	・教師自身の経験を聞いたり、友達の意見を聞いたりなど様々な考えを聴く時間を多く設定する。自分と結び付けて考え、これからの生活にどのように生かせるかを考えられるようにする。
中	・意見が深まらない。発問の言葉が分かりづらい。 ・自分自身のこととして考えることが苦手である。 ・多面的・多角的に捉えることが苦手な児童が多い。 ・自己に振り返ることが苦手。	・発問の言葉を工夫する。 ・様々な立場に立ち、役割を変えての演技を取り入れたり、多角的に捉えられるような板書の工夫したりする。 ・振り返りでは、生活の中の具体的な場面を伝える。
高	・友達の考えを聞いて考えを深めることができるようになったが、道徳的な実践につなげられていない。 ・登場人物の心情を表面的に捉え、自分ごととして深く捉える力が弱い。自己の生き方について深く考えることができない。	・道徳的な実践につなげていくような授業のまとめをしたり、教育活動全般を通した道徳的な価値付けを行ったりしていく。 ・これまでの自分を見つめ直す時間を十分にとる。内容項目と自らの生活を結び付ける。 ・自己の生活と比べる発問をし、考えを深めさせる。学びを振り返り、これからどうしていきたいか言語化していく。

Ⅰ Ⅱ 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
実社会や実生活の中から課題を見だし、情報収集を選択しながら、追求する力。自らの考えや課題を更新し、探求の過程を繰り返しながら問題解決する力。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・テーマが難しかった。体験活動がなければ、児童は退屈である。 ・課題解決の流れを理解していない。	・課題を見つける・調べる・まとめるの流れをつかめるようにする。 ・インターネットだけでなく、本の活用も含め

	・多くの情報から取捨選択する力が弱い。 ・調べて分かったことから自分の考えを広げたり、さらなる課題を見出すことが苦手。	情報の集め方を示す。 ・考えを全体で共有したり、実際に活動できることを考えさせたりし、自分の生活と関連付けた活動になるようにする。
高	・共生におけたパラリンピック教材の「I'm POSSIBLE」を活用した授業や移動教室に向けた調べ学習を行い、情報を選択しながら追求した。課題の更新、探究過程の繰り返しを今後の活動とする。 ・課題に合った情報収集方法を選択することができる。相手意識をした解決した事柄を表現する力が身に付いていない。校内の表現でおさまってしまい、校外へ発信していない。	・移動教室でのフィールドワークや車椅子バスケット体験など体験的な活動を通し、課題の更新を図っていく。 ・課題、活動が社会的に価値あるものか、考えることを授業の中に取り入れる。表現する際には、誰に、何のために向けて表したいのか相手意識を大事に考えさせる。

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団活動の意義を理解したり行動の仕方を身に付けたりして、自己の生き方について考えを深め自己実現を図ろうとする態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・集団生活に慣れ、日直や給食当番、掃除当番、当番活動などに進んで取り組む様子が多く見られる。 ・学級会をしたことがまだない。 ・発言する児童に偏りがある。	・学級がよりよくなるために、どのような係があったらいいかを自分たちで考え、係活動を行う。 ・学級がよくなるためにどうしたらいいか、話し合う学級会の時間を設ける。 ・事前に自分の考えを書かしておく。
中	・自主的な話し合いを行っていない。 ・話し合い活動が好きな児童が多い。決められた時間の中で結論まで達することができないことがある。	・児童からの意見を集めて、主体的な話し合い活動につながるように工夫する。 ・話し合いの流れや目安の時間を提示し、見通しをもって話し合い活動ができるようにする。
高	・新しいクラスの立ち上げイベントや子どもまつりなど、児童が主体的に話し合い課題解決していく姿が見られた。 ・企画をする楽しさを知り、話し合うことに積極性はあるが、決めたことを実行するにあたり意識が欠如し、自分たちで行動に移すことができない。	・「いつまでに」という計画を立てさせ、常に意識できるようにする。自分たちで行動しないと実行できないという経験や実行できた際の達成感を積み、自主的に取り組もうとする意欲をもたせる。

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・副籍交流の計画を立て、一度クラスでの交流をすることができた。 ・あゆみ学級との交流会は、児童の実態もあり、まだあまり交流できていない。 ・図工、遠足、リトミック、まちたんけん、食育活動などを通して、交流できた。	・遠足やリトミックなど、児童の実態に合わせて、レベルや規模を考えて交流をできるようにしていく。 ・2学期以降も交流できる場面を生活科を中心に設定していく。
中	・交流給食が楽しかった。会話中、質問をして答えてもらえるのが良かった。 ・ヤゴ救出大作戦、清掃工場見学と一緒に学習した。今後、水道キャラバン、社会科見学の共同学習を実施予定。 ・行事以外での交流が少ないことが課題である。	・共同学習につながるような交流活動を計画していく。
高	・移動教室に向け、生活班、学習班として協働する場をつくった。 ・あゆみ学級との交流、1年生のお世話など、6年としての意識をもって活動を行うことができてきているが、自主的な活動になかなか結びついていない。	・移動教室、運動会など行事を中心に交流及び協働学習を進めていく。 ・たてわり班活動など、自分たちで企画・立案する交流学習を時間をしっかりと取り、自分たちから相手や周りのためにできる事を考えようとする意欲をもたせる。